

# 民間版画 ②

天理大学附属天理参考館学芸員

中尾 徳仁 Norihito Nakao

今回は当館が所蔵する民間版画の概要について述べた。続く2回の連載では、資料写真を交えながら各分類の具体的な解説を行いたい。今回は「門画」と「祭糊」を紹介する。

## 門画

門扉に貼る民間版画を総称して「門画」という。これを貼ることで幸運を呼び込んだり、邪気を払ったりする効果があると考えられている。さまざまな絵柄の門画がある中で、年末に通りに面した門(大門)に貼るものを「門神図」と呼ぶ。門神図には歴史上や物語上の武将が武器を持つ姿が描かれることが多く、その勇猛さで住民を魔物から守るとされる。

大門は観音開きの二枚扉が多いため、門神図は2枚一組で貼る。名前に「神」と付くが礼拝の対象ではない。地方によっては、武将ではなく虎の図を貼ることもある。虎は魔物を捕って食うとされ、邪気を払う力を持つからである。



図1 尉遲敬徳 20世紀前半、天津市楊柳青 版の天地 155.1cm



図2 秦叔宝 20世紀前半、天津市楊柳青 版の天地 155.0cm

図1と図2は大型の門神図。尉遲敬徳と秦叔宝は唐の皇帝太宗 [598 ~ 649] に仕えた実在の武将で、双方共に武器である金瓜(先端が瓜の形をした長い杖)を持っている。尉遲敬徳は、現在の新疆ウイグル自治区ホータン出身の胡人(西域の人)とも言われ、赤ら顔で濃い髭が特徴である。背景の雲文様や武将の輪郭線(黒色)等、大部分は多色摺りの木版印刷だが、顔部分などの細部には筆による彩色が施されている。

さて、大門には門神図を貼るが、門を入った中庭の門や家の入口や部屋の扉には「天官図」(天の役人が福を授ける図)や「門童図」(子どもの吉祥図)などを貼る。若い夫婦の部屋の扉には「麒麟送子図」(瑞獣の麒麟が優秀な男児を運んでくる図)などを貼って子孫繁栄を祈る。衣裳入れなど家具の扉にも門画を貼る。

図3は「獅頭啣劍」と呼ばれる門画で、災いが家に入るのを防ぐため、門の上に渡した横木や玄関の上などに貼る。百獣の王である獅子の額に太極八卦を描き、口に七星宝剑をくわえさせることにより、さらに神秘的な迫力が感じられる図柄となっている。

## 祭糊

「祭糊」は細く割った竹や高粱ガラで骨組を作り、紙を貼り付けて作った物の総称である。その種類は広範で、大きなものは人が出入りできる建物やアーチなどから、小さなものでは扇子などがある。凧もこれに含まれる。



図3 獅頭啣劍 19世紀末、台南市米街 版の天地 20.8cm

神への供物である「天公燈座」と「七娘媽亭」なども祭糊に属す。天公燈座は道教の高位の神である玉皇皇帝(天公)を祀るときの供物で、作り物の中心部に神像図を貼り、周りは印刷した紙で装飾を施す。礼拝が終わると燃やして天に送る(この行為を「焚化」という)。先祖や死者に供える祭糊もあり、同様に燃やして冥界に送る。祭糊に使用する印刷物は多種多様で、礼拝する神によって使うものが異なり、地域ごとの特色もある。

図4は「七娘媽亭」といい、成人儀礼に使用する祭糊である。本品は女神「七娘媽」を祀る3層の社を象っている。竹ひごを骨組みとし、その上にさまざまな印刷物等が貼ってある。1階の中心奥には七娘媽の立体像(樹脂および紙製)が4体、2階には3体が祀られる。各階には銀紙細工の欄干や龍柱(寺廟で使用される龍を象った石製の柱)、神像の切り抜き等が配されている。印刷物の大部分はオフセット印刷だが、かつてはすべて木版印刷であった。

台南市では、男女共に子供が16歳になる年の旧暦7月7日が近づくと、両親は七娘媽亭の制作を祭祀用品店に依頼する。当日は本品を廟に持参し、廟の出口付近で両親がその左右を支え持つ。続いてこの下を子供が潜って外に出るという一種の成人儀礼を行う。終了後は七娘媽亭を廟前で燃やして天へ送る(焚化する)。

図5は「天公燈座」という祭糊で、天公の誕生日(旧暦正月9日)や、結婚式の際などに祀られる。台湾の鹿港市では天公誕生日に、表門の内側に背にする状態で中庭に祭壇を設け、本品を祀る。そして家族全員が正装し、門の内側から外に居る天公に向かって礼拝する。続けて直会(神に捧げた供物を皆で食べること)があり、儀式終了後は本品を中庭で焚化する。

図5は紙のみを貼り合わせて作られている。接着剤は木工用ボンドと小麦粉を混ぜたものが使用されている。下段左右の龍は龍柱、中段左右の武将は門神を表す。上段には八仙人(註)、蝶、鳳凰などの吉祥文様が印刷されている。なお、図柄はすべてオフセット印刷によるものである。

(註) 道教の数ある仙人の中で、特に庶民の信仰が篤い八名の仙人。李鉄拐(りてつかい)、鍾離権(しょうりけん)、呂洞賓(りどうひん)、藍采和(らんさいわ)、韓湘子(かんしょうし)、何仙姑(かせんこ)、張果老(ちようかろう)、曹国舅(そうこっきゅう)とされることが多いが、諸説がある。位置づけは日本の七福神と似ており、八仙図が祝賀や正月などの飾りとして用いられることもある。



図4 七娘媽亭 1984年、台南市 高136.0cm



図5 天公燈座 2011年、鹿港市 高124.5cm